

## 事例 4

# 「笑顔でただいま」をスローガンに 危険の体感研修から日々の 意識改革まで安全教育を徹底



### 新東工業

表面処理・鋳造設備のトップメーカー、新東工業(名古屋市市中村区)は、「笑顔でただいま」と毎日無事に帰宅することこそ、安全の実現であると会社の基本方針として示す。階層別研修では、専用の教育訓練施設での体感型安全教育の受講を必須項目とし、安全意識を醸成するためのさまざまな施策も実行。実際の事故・災害事例や、事故が起こり得そうな危険に関する情報の共有を徹底するなど、事故の再発防止、未然防止に余念がない。事故ゼロを目指し、安全活動を続けている。

### ある重大事故をきっかけに 安全意識を強める

1927年に国産初の砂型造型機を製造した新東工業は現在、表面処理、鋳造、環境の3つの事業を柱とする。鋳物の砂落としや製品のバリ除去から表面処理技術確立。顧客の仕様や要望に合わせた表面処理設備を手がけ、多様な投射材や研磨材などのノウハウを築いてきた。また、鋳物製造の自動化設備を開発し、品質不良ゼロや生産効率を追求。「産業の米」とも称される鋳造の技術の進化を下支えしている。

それらの設備機械の製造においては、製缶や機

械加工、組立、据付などの要素技術・技能が不可欠。要素技術の新人教育をはじめ階層別の経験に合わせた教育プログラムを体系化しており、人材育成に注力してきた。各種研修の中で必須項目となっているのが、「安全体感研修」である。

同社が安全活動への意識を高めたのは、1990年代後半に起こった、ある重大事故がきっかけだったという。「この事故を機に、以前は各現場でOJTによって安全教育を行っていましたが、組織としての活動には課題があったことに気づいたので」と永井淳取締役社長(写真1)は振り返る。

これを機に安全啓蒙を図るための制度や仕組みの整備に着手した。

また、永井社長がトヨタ自動車のグローバル安全衛生教育センターを見学したことも安全教育へ大きく舵を切るきっかけとなった。「この施設には体感型設備が設置してあり、体感するとわかりやすいという概念を持つきっかけになりました」(永井社長)。

写真1 永井 淳取締役社長



### 会社概要

会社名：新東工業株式会社  
所在地：〒450-6424  
名古屋市市中村区名駅3丁目28番12号  
大名古屋ビル24階  
設立：1934年  
従業員数：1,743名  
事業内容：表面処理、鋳造、環境関連などの設備装置  
の製造・販売およびアフターサービス



写真2 ゴムベルトを使って巻き込まれの威力やスピードを体感



写真3 人事部技能安全研修センター 赤崎 龍哉センター長



### 技能安全研修センターで 危険を身をもって学ぶ

同社で第1号となった体感装置は技能伝承のための装置であり、不具合を仕込むことにより構造・動作の理解度が飛躍的に向上でき、将来の修繕や保全の技能につながるものであった。

当時は工場内の一角に置かれ、徐々に体感装置を増やしていった。

そして2008年、安全と品質の思想を共有し、固有技能の教育・訓練を行う技能伝承の場として技能安全研修センターを開設した。現在、同センターには過去の事故事例を参考に製作した体感装置を54台揃える(写真2)。技能安全研修センターの赤崎龍哉センター長(写真3)は、「後輩たちに二度と同じ事故を起こさせたくないという思いが込められています」と話す。工場の一隅に設けていた体感装置のスペースから専用施設に移設し、教育方法も体系化した。

製缶・機械加工・組立・据付・メンテナンス作業に潜むさまざまな危険を身をもって学ぶ体感研修は、1日コースと半日コースで少人数制の教育プログラムとして組まれている(写真4)。それを溶接や製缶などの技能、さらに人格も兼ね揃えた「工師」や工場長経験者が指導する。

さらに技能安全研修センターの危険予知体感教育(KYT)コーナーには、マネキンを使って38種類の危険な行為やシチュエーションを再現。たとえば、写真5の右側にあるように、50kgの円筒状

写真4 スライドゲート清掃中の挟まれを体感研修



写真5 不安全作業、不安全状態などをマネキンで再現



の重量物を台車で運搬する場面では、重量物が転がって台車から落下すればケガにつながりかねない。実際に重量物がどのように動くかを体験することにより、歯止めがいかに必要かを身をもって知ることができる。

このコーナーでは、KYT4ラウンド法として1